

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-20 水産業振興運営事業				ザイムスコード及び個別事業名			
	□支援部門				363	水産業振興運営事業		
主管課	産業振興課		関連課					
分野名	産業振興							
目標 (目標値)	市民生活に密着した形での沿岸漁業の振興 つくり育てる漁業、資源管理型漁業等による漁業経営の安定及び後継者の育成							
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考				
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯					
運営資源 状況	決算値	3,880千円	3,427千円					
	(国・県)			指標と評価				
	(負担金等)							
	(一般財源)	3,880千円	3,427千円	指標	直売事業の開催回数			
	人員配置数	0.9人	0.9人	評価	○			
	人件費	8,267千円	8,659千円	◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退				
	協働の パートナー				目標値	実績値		
事務事業 運営経費	総事業費	12,147千円	12,086千円	20年度	30回	27回		
	市民1人当 りの経費	69円	68円	21年度	30回	28回		
	対象者1人 当りの経費			22年度	30回			
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	鎌倉漁協	腰越漁協	小坪漁協	23年度	30回		
	年間水揚量	162t	131t	128t	最終年度 (25年度)	35回		
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)平成20年度における腰越地区の天然ワカメの生育が悪く不漁であったことから、その原因の究明及び対策が必要となった。 (2)養殖事業や直売事業などにより、一定の効果は現れているところであるが、漁業経営の安定は未だ困難な状況であり、水産業に対する市民の理解も充分とはいえない状況である。						
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (1)天然ワカメの不漁の原因調査の一つとして、海藻類の生育に必要な海水栄養塩の調査を腰越地区及び例年通りの漁獲があった鎌倉地区の両漁場で実施し、両地区とも基準値内で大きな差異は見られなかった。なお、平成21年度の腰越地区の天然ワカメは例年通りの生育が確認された。 (2)朝市などの直売事業を紹介するパンフレットの作成及びホームページへの掲載などを行った。						
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) (1)養殖事業ではサザエの種苗放流などにより特に鎌倉地区において資源量は伸びているが、生簀等の設備がないため出荷調整ができず、安定的に市場へ出荷ができていないという現状がある。 (2)シラスやワカメ以外の漁獲物の多くは市外の市場へ出荷されており、そのため水産業に対する市民の理解も充分とはいえない状況である。						
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) (1)養殖事業などへの補助により漁業経営の安定化を引続き支援するとともに、出荷調整の方策についても漁業者と検討していく必要がある。 (2)市内への流通・販売の仕組みについては漁業者及び地元水産販売業者等の関係団体と検討していく必要がある。 (3)新たな品目として海藻類の「アカモク」の商品化を行っており、その広報について支援を行う。						
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了								
評価結果	改善の必要性	沿岸漁業の継続や、水産業に対する市民理解のためには、海産物の地産地消という見えやすい施策を充実させていく必要がある。			評価結果	改善の必要性	地産地消を推進するため、市内での流通の仕組みについての検討が必要である。	
A	有				A	有		
課長名		川村 裕伸			部名・部長名		市民経済部 小磯 一彦	